

J-PlatPatの機能改善

—特許情報の活用層の拡大を目指して—

Improvements of J-PlatPat

独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）知財情報部長

福村 拓

2003年特許庁入庁。物理分野の特許審査、審判に従事。調整課審査企画室、審査推進室、日本台湾交流協会台北事務所等を経て、2022年7月より現職。

1 はじめに

工業所有権情報・研修館（INPIT）は、我が国唯一の知的財産に関する総合支援機関として、（1）産業財産権情報の提供、（2）知的財産の権利取得・戦略的活用支援、（3）知的財産関連人材の育成の3つを事業の柱として、多面的なサービスを提供している。特に、知財を活用した企業の「稼ぐ力」の向上をミッションとして掲げ、知的財産を強みとして活かした経営（「知財経営」）への支援の強化・充実化を図っている。

本稿では、1つ目の柱、産業財産権情報の提供に関して、INPITが運営する特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）の機能改善の状況について紹介する。

2 J-PlatPatの機能改善

J-PlatPat¹は、産業財産権情報をインターネットで検索・照会できる無料のWebサービスとして、前身の「特許電子図書館（IPDL）」を刷新し、2015年3月に運用を開始した。サービス開始以来、正確な情報を迅速かつ安定的に提供することに努めるとともに、提供する情報や機能についても、時勢に合ったものにするべく継続的に改善、見直しを図っている。以下では、「特許のリーガルステータス」及び「CSV出力の3,000件への拡張」に関する機能改善について紹介する。

1 <https://www.j-platpat.inpit.go.jp/>

2.1 特許のリーガルステータス

リーガルステータスは、特許等の出願の進捗状況や案件の権利状態（有効・消滅等の生死）等を示す情報である。商標については、日本を含む商標五庁²（TM5）によって、共通ステータスの記述及びアイコンが定められており、J-PlatPatでは、2017年4月から、当該共通ステータスに基づくステータス表示のサービスを提供している。一方、特許についてはリーガルステータスの表示をしていないことから、権利状態は、各出願の経過情報等を参照して判断する必要がある。ユーザーからは、特許についても権利の状況がすぐに分かるよう、リーガルステータス表示を実現して欲しい旨の要望が寄せられている。加えて、五庁³（IP5）においても、リーガルステータス対応を優先的に取り組む事項の一つとして掲げている等、国際的にも対応が求められている。

そこで、J-PlatPatでは、2023年9月から12月にかけて、順次、特許のリーガルステータスの表示と、リーガルステータスによる検索・絞り込み機能をリリースする予定である。公的サービスとして、正確、かつ、状態の変化を速やかに反映したステータス情報の提供を目指している。

2.1.1 リーガルステータスの表示

ステータス情報は、特許庁の特許情報標準データを入

2 日本国特許庁（JPO）、米国特許商標庁（USPTO）、欧州連合知的財産庁（EUIPO）、中国国家知識産権局（CNIPA）

3 日本国特許庁（JPO）、米国特許商標庁（USPTO）、欧州特許庁（EPO）、中国国家知識産権局（CNIPA）、韓国特許庁（KIPO）

複数PDFダウンロードは、最大5案件まで選択できます。

No.	文献番号 ▲	出願番号 ▲	出願日 ▲	公知日	発明の名称 ▲	出願人/権利者	ステータス ▲	FI	各種機能
1	特開2022- [REDACTED]	特願2022- [REDACTED]	2022/03/24	2022/05/31	非水系電解液及び非水系電解液 二次電池	[REDACTED]	(出願の) 却下・拒絶 出願のみなし取下げ	H01M10/0568 H01M10/052 H01M4/38@Z 他	経過情報 OPD URL
2	特開2022- [REDACTED]	特願2022- [REDACTED]	2022/03/04	2022/05/31	二次電池の作製方法	[REDACTED]	審査中 公開公報の発行	H01M4/525 H01M4/36@C H01M10/052 他	経過情報 OPD URL

図1 検索結果一覧におけるリーガルステータスの表示（イメージ、以下同。）

カデータとして、J-PlatPat において演算して生成し、日次で更新する。表示項目は、WIPO 標準 (ST.27) に準拠しつつ、日本の特許制度に合わせ選択したものである。商標のステータス表示と同様に、特許においても、文献番号照会や検索時の結果一覧画面で、ステータス情報が参照可能となる (図 1)。なお、画面イメージは、現在開発中のため、今後、修正される可能性がある点、ご留意いただきたい。

検索結果一覧では、各出願のステータスとして、上段に現在の「ステージ情報」、下段に最新の「イベント情報」を表示する。「ステージ情報」とは、出願又は権利の手續段階を示す情報であり、「イベント情報」とは、出願人、権利者、特許庁、第三者によって起こされた、具体的な手續行為を示す情報である。

J-PlatPat では、「審査中」「特許有効」「特許消滅」等の 7 種類のステージ情報を表示する。また、イベント情報として、「公開公報の発行」、「拒絶理由通知」、「刊行物提出」、「特許査定」、「年金の支払い」、「異議の申立て」、「審判・異議による特許権の消滅」等の約 50 程度の手續行為を規定している。

日本語モードと英語モードのステージ情報及びいわゆる生死の対応は表 1 のとおりである。

表 1 J-PlatPat におけるステージ情報と生死の対応

ステージ (日)	ステージ (英)	生死
審査請求前	Filing	○
審査中	Examination	○
査定不服	Appeal	○
特許 有効	Grant	○
異議・無効	Post-grant challenge	○
(出願の) 却下・拒絶	Application refused	—
特許 消滅	IP right ceased	—

検索結果一覧では、ステータスによるソート (並べ替え) にも対応している。また、検索結果一覧の CSV 出力の対象項目としているので、案件をステータスとともにリスト管理することや、ステータスによる分析にも活用できる。

検索結果一覧以外では、各出願の文献表示画面にもステータス情報を表示する (図 2)。

なお、現時点では、リーガルステータスの表示は、国内出願のみを対象としており、外国出願には対応していない。



図 2 文献表示画面におけるステータス表示

2.1.2 リーガルステータスによる検索・絞り込み

リーガルステータスを指定した検索・絞り込み機能として、2 種類の検索オプション (「ステータス検索 (生死検索)」と「ステージ検索」) を利用可能としている (図 3)。

「ステータス検索」は、係属又は有効な出願に絞り込んだ検索を行うことができるもので、表 1 の生死：○で示したステージの出願を検索対象とするものである。

「ステージ検索」では、「ステータス検索」よりも細かく、ステージ情報を指定した検索を行うことができる。

侵害予防調査等の目的に合わせて活用していただきたい。

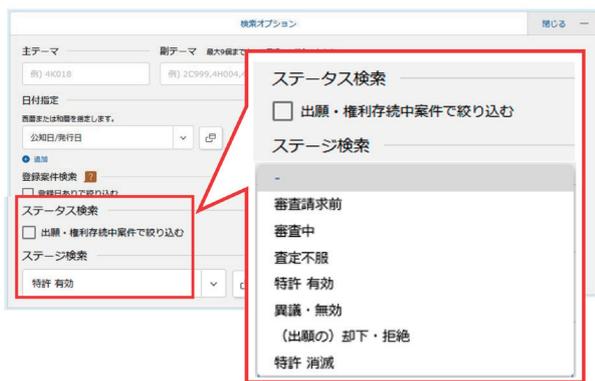


図3 リーガルステータスによる検索・絞り込み

2.1.3 リーガルステータスの活用

本機能により、経過情報を読み解かなくても、生死情報を検索結果一覧で“ぱっと”確認できるようになる。新規分野への参入時の特許調査等で関連する先行特許出願が見つかった場合、その特許出願が現在どのようなステータスなのか、またそれが特許査定されている場合は、その権利が現在も有効に存在しているのかを確認するような場合に利用されることを想定している。例えば、中小企業の経営者や大学の研究者等のユーザーが、特許情報の解釈に精通してない場合であっても、こうした確認を直感的に行えるようになることを目指している。

さらに、競合他社の権利化の意思の確認や、M&Aの際の保有権利のリスト化等、多くの特許関連業務の効率化に寄与するものと期待されている⁴。

2.2 CSV出力の3,000件への拡張

J-PlatPat では、検索結果に表示される各文献の「文献番号」、「出願番号」、「出願日」、「発明の名称」、「出願人」、「FI」、「要約⁵」、「文献 URL」等の項目を、CSV形式でリスト出力することができる。また、今秋からは「リーガルステータス」も新たに出力対象となる。出力結果は、Excel[®]等の表計算ソフトに取り込んで、調査した文献のリスト管理に活用できる。さらに、Excel[®]等で処理してランキングやパテントマップを作成することで、出願動向等の可視化等、入門的な特許分析にも活用することができる。

従前は、CSV出力可能な文献数の上限を500件と

4 「令和3年度特許情報提供サービスの現状と今後に関する調査報告書」（特許庁）

5 要約は、CSVの出力件数が500件以下の場合、出力可能。

していたことから、検索結果が500件を超える場合、500件以下になるように検索条件を変更するか、一旦500件以下に絞り込んでCSV出力したものを結合し直す必要があった。特許庁やINPITに対しては、知財実務者をはじめ、教育現場等からも、「特許分析において500件では母集団として不十分である」等、出力件数の拡張を望む声が寄せられていた。

こうした意見や特許情報の活用促進の観点から、2023年3月に、この上限を3,000件まで拡張し、母集団が一定数以上の特許分析を効率的に行えるようになった。

本拡張は特許・実用新案のみならず、意匠や商標にも対応している。

2.2.1 CSV出力の方法

「検索結果一覧」の画面の「CSV出力」ボタンからCSVファイルをダウンロードできる（図4）。初回利用時には、「CSV認証」画面からユーザー登録が必要である。



図4 CSVファイルダウンロード方法

2.2.2 J-PlatPatとExcel[®]でできる特許情報分析

CSVファイルは、Excel[®]のピボットテーブル機能と相性がよく、CSVファイルの出力項目のうち、分析したい項目をピボットテーブルのフィールドとして抽出することで、自由度の高い様々な分析が可能となる。以下、J-PlatPatとExcel[®]だけでできる、簡単な特許分析を紹介する⁶。

・出願人ランキングマップ

出願人ランキングマップは、検索でヒットした文献集合の出願人のランキングを件数順に可視化したもので、当該分野の主要企業の分析に活用できる。検索結果のCSVファイルをExcel[®]に読み込み、ピボットテーブル機能から、「出願番号」を「Σ値」フィールドに、「出願人／権利者」を「行」フィールドに、それぞれドラッ

6 イーパテント野崎篤志氏にご協力いただいた。

グ&ドロップする（図5）。生成されたピボットテーブルを適宜、出願件数の降順に並べ替えてグラフ化すれば、簡易的な出願人ランキングマップが作成できる（図6）。

また、事前に会社名のスペースの削除等、簡単な名寄せ作業を行うことで、より精度の高い分析が期待できる。

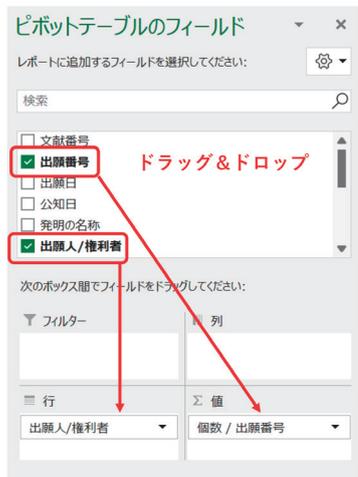


図5 ピボットテーブルの操作例

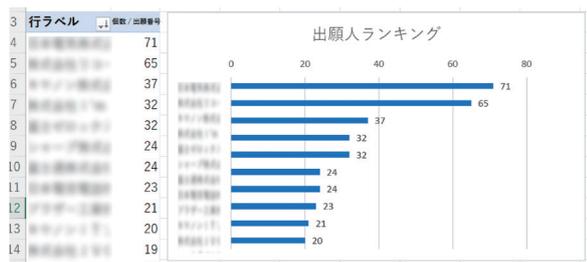


図6 出願人ランキングマップ

このピボットテーブルの「列」フィールドに、さらに出願年⁷の情報を追加すれば、出願人毎の出願件数の年推移を把握でき、企業ごとの参入時期や出願の趨勢等の分析にも利用できる。また、条件付き書式の色分け機能により、年毎の件数をビジュアル的に確認することも可能である（図7）。

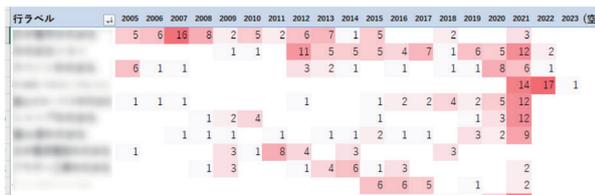


図7 出願人ランキングマップ（年毎）

7 J-PlatPat では、出願年の情報を出力していないため、Excel[®] の year 関数や left 関数等により、「出願日」の項目から出願年を抽出する必要がある。

Excel[®]での解析はユーザーの関心に応じて高い自由度で分析できる点がメリットである。「FI」の情報を分析軸とすれば、技術的な観点から分析できるなど、簡易な解析に限られはするものの、J-PlatPat と Excel[®] だけでも様々な観点から分析できる。

2.2.3 特許情報の活用層の拡大

特許情報の分析は、自社の事業環境（自社技術の優位性、ニーズ等）の把握や、開発方針などの事業戦略の策定、さらには、投資計画などの経営戦略の検討の基礎資料にする等、様々な活用が期待されているものの、知財以外の現場、例えば、経営、投資、教育等の現場では、必ずしも、特許情報の活用が広く浸透しているとは言えない。

そこで、まずは“お試し”として、J-PlatPat と Excel[®] で、今まで特許情報分析に関心が薄かった方にも、特許情報分析に触れていただきたいと考えている。特許情報のさらなる普及の観点から、今後、特許情報分析に係る教材等のコンテンツの作成も必要に応じて検討したい。もちろん、J-PlatPat が保持するデータの限界やユーザー自身による分析作業の負担等から、J-PlatPat と Excel[®] だけでは、専門的な分析は難しいが、ここでは、これまで特許情報の活用と接点のなかったユーザーが、これをきっかけに特許情報に関心を持つようになる等、新たな層を取り込むことを目指している。そして、さらに高度な分析や、定常的な業務に組み込むような利用をする場合には、より高度かつユーザビリティに優れた専門のツールを活用していただきたいと思う。

3 おわりに

今後も INPIT では、J-PlatPat を通じて、公的な知財インフラとしての役割を果たすべく、正確な情報を遅滞なく安定的に提供するとともに、時勢に応じたサービスの提供とその普及に努めて参りたい。その結果、特許情報を活用するユーザー層が拡大される等、特許情報活用の分野全体の活性化に寄与できればと考えている。引き続き、皆様方のご支援とご協力をお願いしたい。

